

千秀だより

横浜市立千秀小学校

3月号

平成27年(2015) 3月 2日



気持ちの良い挨拶に所作を知る

校長 市川 幸男

校庭の梅の開花に続き、こぶしや木蓮のつぼみがふくらんで参りました。また、先月紹介しました1年生の栽培しているチューリップの葉が大きく伸び、ヒヤシンスは花をつけ始めています。季節は少しずつではありますが、確実に春の装いを濃くしてきています。平成26年度もいよいよまとめの時期となりました。残された一月、それぞれの学年の状況に応じて、しっかりと振り返り、千秀に学ぶすべての子ども達が、希望をもって新たなステージが迎えられるように努めて参りたいと存じます。また、今月21日に巣立っていく6年生には、千秀小学校卒業生ということが、新しい中学校での生活の中、自信と日々の力の源となるよう、しっかりと育て参りたいと存じます。

さて、千秀小学校では本年度、毎月、校門に児童が立ち、あいさつ運動を実施して参りました。ご家庭での協力もあって、「おはようございます」の挨拶ができる子が増えてきました。中には、立ち止まり、しっかりお辞儀をして挨拶をしてくれたり、廊下ですれ違う際に、相手の目を見てごく自然に会釈をしたりするなど、感心するほど立派な『所作』が身についてきている子もいます。ところで『所作』は身のこなしという意味ですが、仏教用語では、身業、口業、意業の三業の発動した結果ということだそうです。つまり、言葉と体と心が一体となって現れた姿なのだと思います。また、同様に昔から、「所作、立ち居振る舞いは、目から入る言葉と称され、気持ちがそのまま態度に出て、相手に言葉で話したのと同じように伝わる」と言われております。つまり、気持ちが、所作や振る舞いといった形となって表れるということです。気持ちがザワザワと落ち着かなければ、落ち着きのない所作となってしまいます。また、気持ちが入っていなければ、表面だけで中身がない味気ない所作となるでしょう。そう考えると、立ち止まり「おはようございます」と言えた姿や、美しい所作で黙礼し通り過ぎていく事のできる子どもの姿は、心も体も充実しているということなのでしょう。

一方、コミュニケーション能力の視点から見ていくと、目を見て、しっかりその場にあった挨拶ができるということは、しっかりとした相手意識を持って対応ができていくということだと思います。そしてその力は、挨拶をきっかけとして、より繊細なコミュニケーションや会話に広げられる力と結びついていくのではないのでしょうか。子ども達が取り組んだあいさつ運動の成果として、このような姿に結びついたこと、とても嬉しく、誇らしく思います。今後も千秀小学校が、気持ちの良い挨拶の溢れる学校となるために、子どもと職員、そしてご家庭や地域の方々と協力して取り組みを進めて参りたいと思っています。

最後になりますが、今年度も、読み聞かせ・本の木さんをはじめとしまして、家庭科支援や学校環境整備などチーム千秀の皆様、書写の時間のサポーターの皆さん、また、昔遊びや絵手紙を教えてくださいました地域の皆様等々、本当に多くの皆様にご助力いただきました。紙面をお借りしてではありませんが、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。これからも引き続きよろしく願いいたします。